令和7年度 学校運営協議会委員評価集計

学校教育目標	重点目標	スクールミッション
未来に生きる知性を創造する生徒 世界に生きる徳性を涵養する生徒 風雪に生きる心身を練成する生徒	(1)主体的、対話的で深い学びを通して、知識・技能及び社会で活きる力を育む (2)自己理解を深め、社会の有為な担い手となる進路実現に向けて、積極的に取り組む態度を育む (3)多様性を尊重し、他者と協働することにより道徳心や自律心、創造性を養うとともに、自己指導能力を育む (4)心身の健康の保持増進に努めるとともに、自他の健康安全に貢献できる態度を育む (5)地域の伝統や文化に触れ、地域の人達と触れ合うなかで、地域を理解・尊重する態度を育む	(1)地域唯一の公立高校として、地域の教育資源を活用した教育活動を通して、地域の未来を創っていく生徒の育成 (2)集団生活や特別活動等を通して、コミュニケーション能力や豊かな人間性を身に付けた生徒の育成 (3)多様な進路希望に対応したキャリア教育を通して、希望する進路を主体的にデザインし、進路の実現に向かうことができる生徒の育成

〇評価について〇

【自己評価】 職員自己評価(前期・学年末)の平均から、A:3.25以上、B:2.50～3.24、C:1.75～2.49、D:1.74以下としています。

生徒授業アンケート・保護者学校評価アンケート・職員学校評価をご覧いただき、学校運営協議会委員 学校評価に記入ください。次の評価基準で評価願います。
また、下記「意見欄」にご意見の記入もお願いします。

【委員評価】 A:評価が適切である B:概ね適切な評価である C:あまり適切な評価といえない D:適切な評価ではない

領域	対象	中期目標	今年度の目標	目標達成のための評価の観点	自己評価	成果・課題・改善等	委員評価
教育活動	学習指導	〇主体的、対話的で深い学びと個別最適な学び、協働的な学びの充実	①ICTを活用し、生徒が互いに学び合う学習集団を形成するための指導実践	①classroomを適切に活用し、多様な意見や情報に触れる機会を設けることで、生徒の考えに広がりや深みが表れている。	B	・classroomの活用に関して、生徒授業アンケート結果より、活用している科目は、1年生4/11科目、2年生4/13科目、3年生2/11科目となっており充分とはいえない状況がある。ICT研修を重ね、多様な生徒実態に対応するためにも、活用を定着させる必要がある。	B
			②授業における目標や資質・能力の周知と、生徒が主体的に学ぶ態度の育成	②目標や身につけさせたい資質・能力に沿ったリフレクション(振り返り)が生徒の主体性向上につながっている。	B	・毎時間のリフレクションにより、授業の理解度を把握し、日常的に授業改善を行っていく必要がある。また、生徒が困り感を吐露できる機会を複数設定し、安心して学ぶことができる環境を整えていく。	B
			③多様な生徒の実態に応じた授業実践(国数英は学び直しの工夫を含む)	③日常的な授業公開を授業改善に活かしている。	B	・多様な生徒実態に応じた学びとするためにも、ICTを活用し、個別最適な学びとなるよう、スタディサプリの活用研修を行い、活用を促した。次年度以降、シラバスにスタディサプリの活用を組み込んでいく。	B
	キャリア指導	〇自己理解の深化と社会で活躍する(通用する)ための資質の育成	①深い自己理解に基づく進路目標の確立に向けた支援	①生徒が自己理解を深めることで、進路目標の設定・見直しを行っている。	B	・生徒が自己の将来について考え、自己理解を深められる授業の展開や日々の声かけが不可欠。小規模の利点を生かし、全教員で全生徒に対する進路指導を行っていく。	B
			②社会人としての資質を養うための進路情報・体験・知識の提供	②適切な進路情報等を提供し、生徒が学ぶことや働くことの意義を実感できている。	B	・外部講師による講話、各授業における外部人材の活用を続け、社会の中の学校を意識して教育活動を行っていく。生徒が将来を意識できる機会を適切に設けていく。	B
			③探究活動等を中心とした進路実現への積極的な支援	③進路実現に向けて、生徒が探究的に取り組んでいる。	B	・学校生活、探究活動、地域との交流等、教育活動振り返りを必ず行い、課題や反省点を克服していくことで、社会で通用する逞しい人材を育成していく。これを定着させ強化していく。	B
	生徒指導	〇自己指導能力の獲得に向けた自己有用感の向上と道徳心・自律心、創造性の育成	①生徒の特性に応じた適切な支援とコーチング・スキルの向上	①生徒が自己肯定感を高め、自身の気付きによる向上心が育まれている。	B	・生徒理解が根底にある個別対応は日常的に行われている。生徒と教員の信頼関係は築けているものの、教員のカウンセリングスキル、コーチングスキルにはばらつきがある。スキル向上のための研修を継続的に行っていくことが必要。	B
			②自立する成年に向けた自己管理能力と規範意識を育む行動支援	②校則見直しの取組が生徒の規範意識向上につながっている。	B	・校則検討を行っていく中で「規範意識の向上」という文言は浸透してきたが、「自分達が行っていく」という真の意味浸透までは至っていない。生徒、教員共に「校則」について継続的に探究していく。	B
			③命の大切さや多様性を尊重する態度の育成と「いじめ見逃しゼロ」を目指す組織的な対応	③命の大切さや多様性を尊重する指導を行い、いじめやトラブルを見逃さない、組織的な対応ができている。	B	・サポート委員会、いじめ対策委員会、生徒指導部が各学年と連携し情報共有を行っている。いじめやトラブルに対し、今後も組織的に対応していく。 (R7年度 いじめ認定7件 現在も嫌な思いをしている0件)	B
			④特別活動による達成感の獲得や自己有用感の向上と、地域の活動への自主的な参加の推奨	④各行事、生徒会活動等の目的、資質・能力評価規準を生徒が理解し、振り返りで得られる達成感や自己有用感が、自主的な地域への活動参加につながっている。	B	・後期より評価基準のルーブリックを効果的に活用することができ、生徒の振り返りにも生かすことができた。主に探究活動を通しての地域との関わりは多く取り入れているが、生徒が主体的に動くところまでは至っていない。	B
	健康・安全指導	〇心身の健康の保持増進と、自他の健康安全に貢献できる態度の育成	①生徒の健康管理意識の向上と、SCと連携した教育相談の実践	①自身による健康管理の大切さを生徒が理解し、SCの活用など、安心して相談できる環境を提供できている。	B	・今年度、SCのカウンセリングを定期で受けている生徒はいない。カウンセリング以外のSC活用法を状況に応じて検討していく必要がある。	B
			②清掃活動や環境整備の取組による学校生活・学習環境の美化と地域の環境保全意識の高揚	②教室等の校舎、及び通学路等の美化に努める態度が育まれている。	B	・環境整備、美化意識の定着は学年によりばらつきがあった。また、複数の器物破損も起こった。自分達の学校を大切にする意識、破損してしまった場合の対応も含め、引き続き指導していく。	B
			③校外の講師等を積極的に活用した薬物乱用防止やネットトラブル防止、交通安全等の指導	③ 外部講師を積極的な活用が、生徒の安全意識向上につながっている。	B	・外部講師は積極的に活用した。今後も生徒に響く内容を精査し外部講師を活用していく。	B
学校運営	組織運営	〇スクールミッション、重点目標、育成を目指す資質能力を意識した教育実践	①「チーム学校」として課題の共有と解決に向けた協働	①質の高い報・連・相に努め、主体的に組織力向上に貢献できている。。	B	・各学年、分掌、委員会が持つ情報共有の意識は高まっている。データの情報を見逃すケースが見られるため、ICTを使用する事はもちろん、密なコミュニケーションを引き続き行っていく。	B
			②各教育活動の目的の明確化と資質・能力の評価規準の実効化	②各教育活動において評価規準に基づく評価を行い、改善につなげている。	B	・評価基準ルーブリックが形だけのものになっているケースがあった。各教育活動の目的に照らし合わせ、効果的に評価基準のルーブリックを活用し、振り返りを行っていく。	B
			③ミドルリーダーを中心とした組織的な業務の遂行	③部長主任等のミドルリーダーを中心として、組織的に業務を遂行できている。	A	・各担当者のリーダーシップにより校務が行われている。年度や担当者が変わっても、業務を行える引き継ぎ、人材育成が課題。	A
	信頼される学校づくり	〇学校と地域が一帯となった教育活動の推進	①学校運営協議会をはじめとする地域の関係機関との連携を深め、魅力ある学校づくりの推進	①保護者や地域、小中学校等と連携した教育活動を進めている。	B	・公開授業週間、市内小学校への出前授業、招待授業等、交流・連携ができている。次年度は中学校との連携を図りたい。	B
			②本校の取組の積極的な情報発信	②「すべての教職員が情報発信者である」との認識のもと、芦高だより作成やHP更新などの情報発信を行っている。	B	・芦高だよりやnoteへの情報upは適宜行えている。各職員の意識の差があるので、全教員が同じ温度で行っていけるよう意識向上を図る。	B
	教職員の資質向上	〇教育公務員としての自覚と働き方改革の推進	①教育公務員としての服務規律の遵守	①服務規律を遵守する行動を取っている。	A	・服務規律については通知や研修資料を用い適宜行えている。	A
			②業務の効率化による在校時間の縮減と、心身の健康保持増進及びライフワークバランスの実現	②自己の勤務時間を意識するとともに、教育に対する情熱、やりがいを見失うことなく時間外勤務の縮減に取り組んでいる。	B	・超過勤務の職員が固定化しており、業務の平準化が課題。R8年度に向けての分掌再編もあることから、各分掌業務の精選を改めて行った。	B

〇 校長、教頭の熱心な日常の活動には頭の下がる思いです。芦別高校の生徒は学力は低くても、社会で活躍できる指導を受けており今後も期待します。
〇 ICTの活用に関して、小中学校での授業に比べると活用が少ない。義務教育段階で学んだICT活用について、高校段階ではさらに深い活用を目指して取組を進めていただきたい。
〇 進路指導に関して、保護者評価が下がっていると感じられる。生徒個人へのアドバイスに当たって、生徒の意欲を高める指導や進路目標を達成する実力を育てる指導という点からの取組を進めていただきたい。
〇 次年度の入学予定者が10人台になることを知り、大きなショックを受けました。しかしながら、校長先生はじめ諸先生方の取り組みは間違ってはいないと思っております。当高への入学予定者の減少は様々な要因が重なっていると考察いたしますが、保護者や全国に散在する卒業生そして地域の方々の英知が結集できますことを念じております。〇 情報発信に関して、芦高たよりやHP更新などに取り組まれていることは承知しているが、保護者評価は下がっている。そのことが、保護者や地域の願い、子ども・保護者の話や相談への対応についての評価を下げることにつながっているとも感じられる。高校の活動や生徒の活躍などが報道されるよう新聞社への取材依頼の強化などに一層力を入れてはどうかと考える。新聞などで報道されることにより、保護者や地域の方に芦別高校の活動を認識してもらうことにつながり、生徒の活躍する姿が芦別高校をPRし、入学生確保にもつながっていくものと考える。
〇 令和8年度から「地域連携校」が導入されることから、その特徴を生かした教育活動が展開されることを強く期待している。また、探究の時間での地域企業や地域人材との連携により、生徒が地域を知り、体験したり、気づいたことを提案したりする活動を通じて自らの可能性を広げ、生き生きと活動できるよう教職員の皆さんのご尽力に期待をしております。